

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	平成 28 年度
氏名	蜂谷 春佳	指導教員 (主査)	宇野 耕司

論文題目	<b>多胎児育児支援者が母親を支援するプロセスに関する研究</b>
------	-----------------------------------

## 本文概要

### 問題と目的

多胎児を育てる母親は単胎児を育てる母親よりも不安が高く、虐待のリスクが高いことが指摘されている。しかし、多胎児を育てる母親を支援する場は不足しており（服部・布原・名和，2006），多胎児を育てる母親をサポートする体制が整っているとは言い難い。また，多胎児を育てる母親の困難については具体的に明らかになっていないという現状がある。本研究では，多胎児育児支援を行っている支援者の語りから，多胎児を育てる母親の困難について明らかにし，どのような心理的・精神的なサポートが必要であるかについて明らかにする。また今後の多胎児育児支援のあり方について明らかにすることで，臨床心理士が地域における多胎児育児支援にどのように関わっていくことができるのかについて明らかにする。

### 方法

2015年12月下旬より，研究実施者と直接的な利害関係や権力関係がない多胎児育児サークルの支援者12名にインタビュー調査を依頼した。研究実施者と調査参加者との1対1の半構造化面接（60分以内）を実施した。データの分析には修正版 Grounded Theory Approach (M-GTA)（木下，2003）を用いた。

### 結果

【多胎児妊娠を知った時の複雑な思い】【妊娠期の身体的な負担】【無事に出産を終えることへのプレッシャー】の概念から〈多胎児育児の支援者から見た多胎妊娠を知った時から出産までの困難感〉が構成された。【多胎育児の身体的負担】【自分が自分でなくなる】【想像していた育児との乖離】【母親一人で育児をするべきという思い込み】【子どもへの罪悪感】という概念から〈多胎児育児の支援者から見た多胎児育児の精神的身体的負担感〉が構成された。【子育ての手法を学ぶ】【身近な先輩ママから学ぶ】【自分の子育てを振り返る】【母親自身の成長】の概念から〈多胎児育児サークルの意義〉が構成された。【妊娠期からの顔つなぎ】【家族全員が生まれる前に心の準備をする】【支援者が事前に母親の情報を得る】【多胎児の育児支援を母親に知ってもらう】という概念から〈妊娠期からの切れ目のない支援〉が構成された。【心ない声かけをされていると感じる】【多胎であっても母親ならできて当たり前】という概念から〈多胎児育児への社会の理解のなさ〉が構成された。【同じ境遇の母親を救いたい】【当事者から支援者へ】【多胎児育児の必要性を感じる】という概念から〈多胎児育児の支援者になる〉が構成された。【現在支援できていない母親をどう支援していくか】【他機関との連携の必要性】【子の発達に関する視点】【グレーゾーンの母親への支援】という概念から〈多胎児育児支援の今後の課題〉が構成された。

### 考察

多胎児を育てる母親の困難感を支援者の立場からどのように捉えているのかについて明らかにすることができたと考えられる。また，当事者がどのようなプロセスを経て支援者となっていくのかについて明らかにすることができた。さらに，今後の多胎児育児支援を考える上で，臨床心理学的な視点が必要になるということについて明らかにできたと考えられる。

### 主要な参考文献

服部律子・布原佳奈・名和文香(2006). 地域における行政と育児サークルが協働で行う多胎児支援 岐阜県立看護大学紀要, 7, 29-35.